

第39回

(通算3585回) 例会
令和6年5月23日
例会場：ホテルアークリッシュ豊橋

クラブフォーラム「青少年奉仕」
多様性が求められる時代の青少年育成

R情報・青少年奉仕委員会 担当



2023-24 RI テーマ・世界に希望を生み出そう

5月 青少年奉仕月間



福井 敬会長

近藤 眞

山口 耕平

松坂 良太 会員

R情報・研修委員長 青少年奉仕委員長

会長挨拶

福井 敬 会長

皆さんはデジタル・デバイドという言葉を知っていますか。日本語では情報格差と訳されます。これはインターネット等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との格差のことです。

デジタル・デバイドには、インターネット利用率や、都市と地方のインフラの差、身体的・社会的条件によるものがあります。それ以外にも、高齢者はデジタルネイティブ世代に比べて、インターネット利用率が低く、そこから世代間デジタル・デバイドが生じます。特に情報技術を使えていない、あるいは取り入れられる情報量が少ない人々、または放送・通信のサービスを都市部と同水準で受けられない地域・集団を指して「情報弱者」と呼ぶ場合もあります。私たちはこのように自分ができるもの、自分が共感できるものを「こっち側」、対立するものを「あっち側」と呼び、何かと区別や差別をしているのではないのでしょうか。

2016年に「ヘイトスピーチ解消法」が施行されたことにより路上でのスピーチは減少しましたが、ネット上では今も差別発言が横行しているようです。お互いに信頼感がなく、不寛容な罵りばかりの世界は健全な民主主義社会とはとても呼べません。様々な意見を持った人がいるのは当たり前ですし、自分の考えに合わない意見を聞きたくないことは良く分かります。しかし、排他意識を持つことより、相手に対して寛容であることが社会的に価値はあると思います。

本日のフォーラムのテーマは「多様性が求められる時代の青少年育成」です。この多様性という言葉の意味は広く、環境問題やSDGs、LGBT、宗教問題にまで発展していくと思います。自分に都合の良い「こっち側」と「あっち側」があることは当たり前だと思います。しかし「こっち側」から「あっち側」の背景を知るために、インターネットの情報を活用して「あっち側の当たり前」を理解し、想像できる力があれば、多様性は当たり前のことになっていくと思います。

主催者挨拶

近藤 眞 R情報・研修委員長

職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕は、奉仕活動を点から線、線から面へと拡大してきました。その面に時間軸を追加するのが青少年奉仕です。つまり、次世代である若者を対象とした奉仕活動です。これによって奉仕活動が面から立体へと拡大しました。

豊橋RCはIACとRACを提唱しています。また、同クラブを支援する委員会があり、それぞれ例会を担当しています。この様に、提唱、委員会、例会があるロータリークラブは2760地区でも数少ないかと思えます。更に、これ以外にも青少年奉仕委員会があり、例会とクラブフォーラムを担当しています。これらのことから、豊橋RCは青少年奉仕を重要視していることがご理解いただけると思います。本日はフォーラム終了時に「時間軸を体験した」と言えることを課題として積極的に聞いてください。

趣旨説明

山口 耕平 青少年奉仕委員長

現在、私たちを取り巻く社会や生活環境は、時代と共に変化しており、多様性が求められる様になりました。本日のフォーラムでは「多様性が求められる時代の青少年育成」と題して、普段から青少年の育成に関わる仕事をされている方々からお話を伺い、学びを深められるような例会にしたいと考えています。

スピーカー1

中田 昌宏 会員



私は、幼児教育を中心にいくつかのコースを開設しています。現在は、0歳から大学受験のある18歳までの生徒を受け持っており、長い間お子様の成長の過程をみることができ教室として頑張っています。現在は、教育の変革期で先の見えない多様な時代です。しかし、どのような時代や家庭環境でも、子育てでは変わらない大切なことがあると思っています。

12歳までには4つの年齢期があると考えており、子育てには発達段階によってそれぞれ大切なことがあります。0歳から3歳までは、愛情と、保護者や養育者の方との絆の形成。4歳から6歳までは、先の目標のために考えをコントロールする実行機能を育てること。また、家庭のルールを作ることも大切です。7歳から9歳までは、学びに向かう姿勢を育てること。この時期は結果よりも努力する過程が大切になります。9歳から12歳までは、思考することが大切です。この時期に十分に思考を行った子は、大きくなってから自分の思いを実現している場合が多いように感じます。

最近、大学生の子達とも話をする機会がありました。ご両親に、幼少期にどの様なことに力を入れていたか伺ったところ、2つの共通点がありました。それは、周りから愛されていると感じる環境作りをしたことと、授かった子を大切に育てて大きくなったら社会にお返しするという気持ちで育てるということです。これは私自身の学びにもなりました。

これからも幼少期から通っているお子さま達が、将来自分の思いを実現し、幸せな生き方ができるような指導を行っていききたいと思います。

スピーカー2

河合 珠美 会員



私のバレエ教室には、聴覚障害や脊髄損傷、脳損傷、発達障害、社会不安障害、心の障がいを抱えた生徒がいます。子ども達のクラスでは、障がいを持った子が、一般の生徒に混ざってレッスンをするのはとても難しく、できないことが多いと分かっているにもかかわらず、彼女たちの成長に繋げています。

バレエは自己表現やコミュニケーションのツールにもなります。ひとり一人の発達認知レベルや、表情を観察しながらレッスンに導いています。また、定期的に行っている発表会やステージにも参加させており、彼女たちの自信や達成感を積み上げています。袖幕ではハラハラすることがありますが、彼女たちを見ると、環境が与える影響の大きさや「継続は力なり」という言葉の意味を感じさせてくれて、私にとっても毎日が貴重な学習となっています。

有名なボストンバレエ団では、障害のある方に向けた教育システムを行っています。バレエ指導者だけでなく、障がいの専門知識を持ったスタッフや、理学療法士と一緒に指導されているそうです。私はアシスタントも補助もない状態で指導を行っているため、大きなバレエカンパニーが羨ましいと思います。

先日、聴覚障害の生徒がいる教室に、両親がフィリピン人で日本語が全く話せない生徒が入会しました。現在は、一般の生徒とも聴覚障害の生徒ともコミュニケーションをとることができ、レッスンできるようになりました。指導としては、耳が聞こえなくても日本

語が通じなくても、私がしっかりとお手本を見せれば大丈夫です。これからも私の育成法で指導を行っていききたいと思います。

スピーカー3

柳原 茂 会員



私の職業は、建物の設計です。全ての人が尊重され、あらゆる活動に参加するためには、まちや建物を円滑に利用できることが大切です。

豊橋市内のある学校のトイレを改修した際、入り口の段差を無くし、便器の横に手すりを設置しました。これらは一定の障害を持った方でも自分ひとりで施設を利用できるように行われました。人の手を借りずにトイレを使用できるということは、人としての尊厳に繋がると考えています。

2001年に父がNPOを設立し、現在は私が引き継いでいます。また、豊橋市の職員の方と「人にやさしいまちづくり塾」を行っており、市内の小学校や高校で車いす体験を行っています。この活動は20年以上継続している活動です。地道な活動ですが、地域のまちづくりや青少年の育成に少しは貢献できているのではないかと思います。また、車いす体験を実施する際の講師の育成も行っており、障害のある方への接し方や、目の不自由な方への声のかけ方等を教えています。

人にやさしいまちづくりが始まったのは、20から30年前になりますが、バリアフリーが中心だった時代から、年齢や性別、障がい、国籍等に関わらず、お互いに声を掛け合って必要に応じて手を差し伸べることができることを大切にしたいまちづくりが中心になっていて感じています。多様性が求められる時代に、建物の設計を行う者として、全ての人が使いやすいものを心掛ける一方で、優しい気持ちを持って相手に接することの大切さを、将来を担う青少年に伝える活動に今後も携わっていききたいと思います。

スピーカー4

植村 忠慶 会員



保険は、皆が少しずつリスクを負担して、偶然の事故で大きな経済損失を被った方に集中して大きな補償をします。また、人々や家庭、企業が直面するリスクを共有し、そのリスクに備えるための財政的な安全を提供することで、社会全体の財的安定に寄与していると考えており、非常に公共性の高い事業だと自負しております。

目的別に多くの保険が存在していますが、特に子育て時に必要な保険は、親の死亡保障や収入保障保険です。これらの生命保険が家庭の生活費や、子どもの養育費をカバーします。また、子ども自身の病気や怪我に対応する傷害保険や医療保険もあるに越したことはないでしょう。また、今や必須となっているのが個人賠償責任保険です。日常生活における偶然の事故で、

第三者に対する賠償事故の加害者となってしまった場合に、その賠償金を保険でカバーするものです。また、企業においては類似の保険として施設管理者賠償責任というものがそれにあたります。

公的な保険制度にも多種多様なものがあります。公的保険の保障の基礎として、それを保管するのが民間保険という位置付けですが、今後益々高齢化が進む日本では、社会保障費も急増することから、公的保険に当てられる国の財源も比較的減少傾向になることが予想されます。民間の保険が果たす役割が増大することを想定し、顧客を守り、社会の安定に寄与できるように当社も頑張っていきたいと思っております。

アドバイザー講評

松坂 良太 会員

近年ロータリーでも多様性に注目しています。特に来年度の資料を見ていただくと、ダイバーシティという言葉が多く出てくるので、それを見た時には本日のフォーラムを思い出していただきたいと思っております。

本日は4名の方にお話をさせていただきましたが、中田会員には、12歳までを4つの段階に分けて説明していただきました。0歳から3歳までの話を聞いた時「三つ子の魂百まで」という言葉が頭に浮かびましたが、調べてみると全く違う意味でした。河合会員には、ご自身が経営するバレエ教室の生徒さんについてお話をさせていただきました。様々な方を受け入れるということは大変なことだと思いますが、彼女の人柄のおかげでできているのだと感じました。柳原会員のお話を聞いて、自分が学生時代のトイレはどの様なものだったか考えてみましたが、当時のものと比べて今のトイレは使いやすいように様々な工夫がされています。柳原会員の様な方がアドバイスをすると、皆さんに優しいものが増えるのだと思いました。植村会員には保険のお話をさせていただきました。仕事柄、片親の方がとても苦労されて子どもを育てているという場面に立ち合わせていただくことが多くありますが、その様な場面で保険は有効だと感じます。4名の発言者の皆さま、本日はありがとうございました。

フォーラムリーダーお礼の挨拶 山口 耕平 青少年奉仕委員長

本日は4名の方から様々な話が伺えたと思っております。本日学んだことを取り入れながら、今後活動していくことが大切だと思います。

主催者 締めめの挨拶

近藤 眞 R情報・研修委員長

今年度5つのクラブフォーラムを通じて福井会長のフォーラムへの思いを伝えるために、まず「五大奉仕」、「クラブフォーラム」という言葉を伝えました。次にその言葉の意味を伝えました。最後に、毎回注目点を提示することで傾聴を促すことを伝えました。いかがだったでしょうか。以上をもちまして、今年度の全てのクラブフォーラムを終了いたします。

ニコニコBOX

山本 光伸 ニコニコ委員長

- 今年度最後のフォーラムです。活発に意見が出ることを期待しています
福井 敬 会長 伊藤 晴康 幹事
- 本日、青少年奉仕のクラブ・フォーラムを主催させていただきます
近藤 眞 R情報・研修委員長
- 本日は青少年奉仕フォーラムです。皆さまの学びの場となればと思っております。よろしくお祈りします
山口 耕平 青少年奉仕委員長
- 本日のフォーラム、アドバイザーを務めさせていただきます
松坂 良太 会員
- 5/18地区年次大会にて、豊橋ローターアクトクラブが最優秀クラブ賞、ReMAKE（リメイク）賞を授賞しました。皆様のご支援のお陰です。ありがとうございました
佐藤 裕彦 地区ロータリー奉仕副委員長
山口 耕平 青少年奉仕委員長
柳原 茂 地区ローターアクト副委員長
金子 幸義 次年度青少年奉仕委員長
宮本 順子 ローターアクト委員長
- 春の家族会に家族3名で参加し、楽しませていただきました
三木 隆治 会員
- 春の家族会で誕生祝をしていただきました
松坂 良太 会員
- 5/19晴天の中、三河カントリークラブにて、牧野会長以下13名が参加し豊橋RCゴルフ会が行われました。グランドシニア優勝が渡部茂久会員、準優勝が宮田正人会員、シニア・一般の部優勝が山本勘司会員、準優勝が近藤崇会員でした
豊橋ローターアクトクラブゴルフ会

(順不同)

本日のビジター

豊橋北RC 1名 豊橋南RC 2名
豊橋ゴールドデンRC 3名
計 6名

幹事報告

伊藤 晴康 幹事

1. 2024-25年度地区大会事務局開設のご案内が届いています。
2. ロータリー誌が届いています。

歌

ソングリーダー 河合 珠美 会員



「夏は来ぬ」

出席報告

浦野 文博 出席委員

当日出席者 55名 計算会員数 87名中28名欠席
総会員数 108名 出席率 66.27%

例会予定

- 6月6日(木) イニシエーションスピーチ
- 6月13日(木) 卓話「社内の『和』を育む～企業内の親睦活動・行事について～」